

[16_2] 図書館情報 : 九州大学附属図書館報 :
16(2)

<https://doi.org/10.15017/17974>

出版情報 : 図書館情報. 16 (2), pp.15-32, 1980-06-30. 九州大学附属図書館
バージョン :
権利関係 :

九州大学附属図書館報

図書館情報

The Kyushu University Library Bulletin

Vol. 16, No. 2 (1980, 4~6)

教養部分館新館落成

教養部分館の新営工事については既報のとおりであるが、落成祝賀式が昭和55年4月12日に同分館において行われた。以下に掲載する祝辞は当日の録音から再録したものである。

神田慶也学長祝辞

九州大学附属図書館教養部分館の建物が見事に落成しましたことは、誠に御同慶の至りに存じます。おめでとうございます。

この分館の建設に当たり、関係各位の皆様方が、たいへんな努力をされたことを、さきほど岡村図書館長・中村分館長お二人からお話を伺いましたが、皆様方の努力がここに見事に実を結んだということは、九州大学の歴史の中で、とくに教養部が新制大学制度となりまして満31年にそれが達成されたということで、九州大学の歴史の一駒を画するものである、というふうに考えます。



教養部分館
(前庭より玄関を望む)

まだ内部を拝見しておりませんので、いささかとんちんかんなことを申し上げる恐れがあるかと思えます。この図書館が九州大学の教養部の中で占める位置というものを、さきほどからお話を承っておりますが、それは主に学生諸君のために開放された、非常に豊かなゆとりのある図書館ということであります。また、さきほどいただいた「教養部報」にちょっと眼を走らせましたところ、大いに学生に利用していただくということが書いてありました。しかし、私は学生諸君もさることながら、まず教官の方にも積極的にこれを利用していただいて、そしてむしろ、その模範を垂れていただきたいと考えるのであります。教官の方は自分のオフィスをお持ちで、御自宅にも書斎をお持ちかと思えます。しかし、図書館での勉強というのは、一つの新しい次元を占めるべきものであり、こんな立派な建物になった時はそれに合わせた勉強の仕方がある筈です。元来、どうも日本人は図書館での勉強というのは、これまで立派な図書館が与えられなかったが故に、そこでの勉強をはたして上手に活かしておられるかどうかという点に若干の疑問をもっているのであります。

非常に貧しい私だけの経験であります、アメリカに留学した時に見た、かれらの図書館の利用のうまさというものを思いますと、もう少し私どももこのような立派な施設が与えられたとなれば、これを十分活かさねばならない、そういう一つの次元にはいっていると私は思います。そういう図書館での勉強の仕

方を、次には学生にも譲り渡して、学生諸君も新しい観点のもとに、図書館での勉強を進めるというように発展させていただきたいと考えます。それこそが、この分館のもつ大きな使命ではないかと思っております。

次に、六本松キャンパスには、学生の溜り場といえますか、その居場所がないということではありますが、ここは居場所にはちがいないのですが、ひとりひとりが一生懸命に勉強をしているところですから、そこでわいわい話をするとすれば、これはいかがかと思えます。つまり、この図書館の雰囲気というものは、他の場所とはちがうわけで、さきほど申したように先生方も範を垂れていただきますとともに、この図書館はとくに静謐と申しますか、quietness“静けさ”というものが要る、その“厳やかな静けさ”が必要だと思えます。またこれも私の貧しい経験でございますが、図書館での勉強に慣れていない私たちは、ちょっと何か話している内についつい声高になってしまいます。そうすると「シーッ・シーッ」とたしなめられた経験があります。こうゆう新しい建物にはいりますと、そういう習慣がついておりませんので、つい声高になって喧騒にわたる。そうなりますとここで勉強する気がおこらなくなる。そのようなわけでとくに静謐を保つということに御注意いただきたいと思えます。それがまた、勉強を促進させる一つの途ではないかと、そのように考えます。

さきほども図書館長、それから教養部長も申されたと思えますが、この建物はそういう意味でメンテナンス、維持管理を十分やっただけでなければなりません。皆様方の御努力によって学生会館は、見事に管理されております。この図書館も十分にその管理能力を持っておられると私は信じております。蛇足の言葉を付け加えたように思いますが、このようにピカピカと新しい状態の時に志を高くして、立派にこの図書館を維持管理していただきまして、学生の勉学意欲をいやがうえにも高めるということを皆様と一緒に御協力いただきますようお願いいたしまして、お祝の言葉にかえさせていただきます。

ありがとうございました。

河野和正教養部長祝辞

図書館長はじめ分館長、図書関係の職員の方がた、おめでとうございます。私が言うまでもなく、図書館というのは大学における一つのコアとしての機能、それが九州大学でも徐々に整備されつつあると思っております。事務の一本化、完全な形ではございませんが、システムとしてそういうふう運営され、かつ昨年は財政的な援助も振替予算を通じて一本化ということをやっていただきました。ぜひ今後も図書館の業務が大学の一つのコアとして、とくにまた今後は学術情報システムなどの一つのセンターとして発展して下さることを心からお願い申し上げるとともに、お喜び申し上げます。

私は祝辞を述べるというよりも、気持としては、今日、学内からいらっしやっている沢山の方々の御協力に対してお礼を申し上げたいというほうが偽らざる気持でございます。

御承知のように六本松の地区は非常に狭くございまして、学生が大学の約半分、4千5百、そこで取得致します単位から申しますと、卒業要件の内3分の1あるいはそれ以上、40パーセント近くのをここで修業しているのが実態だと思っております。ところで、学生諸君が講義がない時間あるいは、休講になった時間、全く居場所がないというのが私どもとして学生諸君にたいへん苦しい点でございました。

学生会館が改修になり、正常な運営にいま一步というところでございますが、私どもが直接的にそのことを眼の前で見させられたのは、ちょうど奥田前部長が学館の代替施設として教室の一部を当てたことがございます。学館と完全に同じ機能をそこで学生に与えようというつもりはございませんでした。ただ居場所がなくなるということと、学生控室の一部としてミルク・ホールの隣の場所を提供したわけですが、

われわれはその使用に関して、やはり深夜にまた音楽でもやるのではないかというような心配ばかりしておりました。ところが、あに凶らわんや、その部屋は学生の全くの自習場所になっておりました。そして、それが現在も続いております。

現代の学生の気質についてアレコレ申しますれども、やはり底流には、過去の私達がそうであったように、学問への指向がしっかりとあるんだと思えました。自習している部屋に他の学生が入ってきて乱すようなこともなく、それが厳然と、ずっと現在まで続いておりました、学生会館の改修が完了しましたのちも潰すに忍びなかったわけです。

そういうことから、この図書館が出来まして、たいへん立派な容れ物が出来たという意味で、学生への心配が解消したと、たいへん喜んでおります。

おそらく学生諸君は、この中のまず建物、雰囲気につられて沢山入って来るであろうと期待し、またそうなるであろうと思います。学生のこのキャンパスにおける動線といいますか、フローといいますか、そういうものはここから学生会館、あるいは正門を出てその周辺とでございます。その正門の周辺にはパチンコ屋もあれば麻雀屋もあり、校内から直接耳に聞えてくるような状態です。そういう動線が、ぜひこの図書館に向いてきてこの中に入り、入ったことによってまたこの中の図書を見聞きするという意味で、学生諸君に大きな影響を与えるだろうと、期待しております。

ところで、この自由閲覧室には開架の設備がございませんが、三階に開架閲覧室がございます。この開架閲覧室もずいぶん広うして下さいました。6万冊位の開架が出来るという状況になっております。中に入ることによって本を目の前にし、手にとり、そういう雰囲気の中で学生諸君が勉強して呉れるであろうと期待しております。

長い間の目標がやっと私の代に完成していただきました。光栄に思うと同時に、学長はじめ各部局長、優先順位を自分の所をさしおいて教養部のためにお譲りいただきましたこと、各施設あるいは工事関係の方がたに工事中はたいへん無理なお願いを致しましたこと、これは授業を遂行するためのことと思し召して、御容赦のほどをお願いしますとともに厚く御礼を申し上げます。また図書館の方がた、また我われ大学院人、教養部人にとっては、自らとどもに祝辞を言うと同時に御礼を申し上げたいと思います。

どうも有難うございました。

岡村 繁 附属図書館長挨拶

本日は教養部分館の落成式に当たりまして、皆さま、御多忙の中をようこそおいでくださいました。まことに有難く存じます。このたび、このようなすばらしい図書館が、めでたく教養部に完成したわけでございますが、これを建てていただくにつきましては、学長・事部局長、歴代教養部長はじめ関係者の方々の並々ならぬ御尽力のお蔭でございまして、図書館長といたしまして、ここにあらためて厚く御礼を申し上げます。

かえりみますと、昭和52年、私が館長に就任した直後のことでございますが、当時教養部長であられた奥田八二先生と、分館長であられた三上正利先生とが、わざわざ私のところにお見えになりまして、すっかり老朽化してしまった分館の窮状を切々と訴えられ、一日も早い新図書館の建設を強く要望なさいました。それで私は、早速こちらに参りまして、すみからすみまで、つぶさに図書館を見てまわったのですが、その荒れかたは、御承知のようにたいへんなものでございまして、もし火災でもおこったらひとたまりもありませんし、それに雨漏りまでしていて書物の痛みもひどいようで、これは一刻も猶予ならないと痛感いたしました。

もちろん、この古い図書館は、旧制福岡高校の卒業生の方々にとっては、青春時代の懐しい思い出のよすがとなるものではございましょうけれども、事態ここに至っては、そんな悠長なことはいっておれません。そのようなわけで、あるいは皆さまは、もうお忘れになったかも知れませんが、当時の『図書館情報』に

私が新任の挨拶を申し述べました際、いくつかの私の努力目標のうち、なによりも優先して、まず第一に掲げた私の目標は、ほかならぬこの教養部分館の新営でございました。それが本日、皆さまのお蔭で、こうした偉容となって実現いたしました、たいへん私も満足いたしております。

この新図書館の建築過程にもいろいろな経緯がございましたが、昨年、文部省からこの図書館の新営予算をつけていただき、いよいよ本格的な建築設計に取りかかる段階になりました時、私に対して、「こんどの教養部分館はどのような建物にするのか、館長として最高方針を示してくれ」という要請がございました。そこで私は、即座に「できる限りデラックスに一」とだけ申しました。なぜ私ができるようなことをいったかと申しますと、これは私のかねてからの念願でもございますが、若い学生たちが、はじめて高校からこの教養部に進学してまいりました際、静かに書物をひもとき、思索にふけり、学問的な雰囲気を感じる喜びをかみしめながら、「ああ、やはり大学は高校とはちがう。自分は九大に入ってよかった」という新鮮な感激を彼等らに味わわせるには、まずなによりも堂々たるすばらしい図書館が必要だと考えたからでございます。学生たちの長い生涯には、いくたびか挫折もございましょうし、いくたびか苦悩を味わうことでもございましょう。しかし、そのような時、この入学当初の新鮮な学問的感激が、彼等を初心に呼びもどし、再び立ち上がる大きな精神的機縁になることを念願してやみません。

『論語』の中に、孔子の言葉として、「学びて思わざれば則ち罔し。思いて学ばざれば則ち殆し。」という言葉がございます。この意味は、申し上げるまでもなく、「学問をするばかりで思索を怠ったならば、その人間は見識のない人間になってしまうし、またその反対に、思索するばかりで学問を忘れたならば、その人間は見識が偏り、不安定になる」ということでもございますが、このたび教養部に、そうした学問と思索のための堂々たる殿堂が完成いたしました、御同慶の至りに存じます。

それにいたしましても、これだけのすばらしい図書館を今後維持して、学生たちに勉学のサービスをしつとくということは、これは並大抵のことではございません。どうか御列席の皆さまには、若い学生たちがこの図書館を拠り所にして勉学に励むことができますよう御高配くださいまして、全学的な末長い御支援を、この際あらためてお願い申し上げる次第でございます。

まことに蕪辞ではございますが、一言御挨拶申し上げます。

中村正夫教養部分館長挨拶

このたび九州大学附属図書館教養部分館の新営完成に当たり、竣工落成式典を催しましたところ、御多用申しかも雨天の中を神田学長はじめ御来賓各位ならびに九大教職員多数の御臨席をいただきまして、誠に有難うございます。実は内々で御出席いただけるのは100人どまりではなからうかと予測しておりましたところ、御通知をいただきましたところでは約140人、当館員を含めるとゆうに150人を超えることになりまして、それだけ大勢の方がたが「祝ってやろう、喜んでやろう」という御芳情を寄せて下さいましたわけで、我われ一同、感激かつは感謝しておる次第でございます。

新分館がここに実現するにつきましては、かなり長い道行きとそれなりの苦悩がございました。御承知のように、本分館の前身は新制九州大学第一分校の図書館でございましたが、さらに遡れば旧制福岡高等学校の図書館でございます。かつて600人の生徒を対象としたにすぎない極めて小規模なミニ図書館で、建物自体も大正12年に福岡高校が創立されました時に建てられておりますので、昨年までではすでに60年の歳月を経た老朽建築物でした。それでも第一分校時代はともかく、昭和30年にこの六本松キャンパスに分校が統合されますと、新分校はいっきに教職員約200人、学生数約2,400人、図書約58,000冊にふくれあがりました。そのため、図書館も旧来の施設のままでは狭隘にすぎるといので、昭和33年3月にかけて、とりあえず書庫・閲覧室を増築し、さらに隣接の講堂を閲覧室に転用するなどの対応策を講じました。そしてそれこそが昨年2月までの旧分館施設であったわけでございます。

ところで、当時の増改築は全く急場しのぎの措置にすぎませんでしたから、以後、図書館施設の拡充は

当六本松キャンパスの整備に関する基本的な課題の一つとしてセットされることとなります。まず昭和31年、医学部分館の発足と踵を接して教養部分館の設置を要望しましたのも、いってみれば最初の布石ということになりましょう。しかし、六本松キャンパスとしては学生数が年毎に増加するにつけても講義室や教官研究室の増改築、あるいは厚生補導施設（学生会館・体育館など）の新設を優先させねばならず、それらが一応の完成をみた5、6年前からいよいよ新分館建設問題が現実性を帯びて参りました。本日御列席いただいておりますその頃からの歴代分館長、西尾・浜両先生の時代から少しずつ構想が練られ、白水・西原両先生の時代には具体的に設計図の検討を行う段階になりまして、前任者の三上先生時代にはついに概算要求の学内順位最優先事項にいただきました。ところが、何処からともなく六本松キャンパスの移転構想なるものが取り沙汰されたところから一時「待った」がかけられ、土壇場で頓座してしまったようなことでした。

それに致しましても、教養部は現在教職員約350人、前期のみではありますが学生数約4,500人、図書約20万冊をかかえております状況のもとでは、教養部分館を旧態のまま放置しておくわけにはいかない。それが教育研究に及ぼすマイナスの影響を考えると心胆寒い思いがする。その切実感は極めて強く、幸い不肖私が分館長に就任致しまして、奥田前教養部長のバック・アップや岡村館長の御尽力をいただき、また全学の御賛同をも得られて昭和53、54両年度にわたって新分館建設が認められることになりました。

いよいよ着工を前にして、教養部あげてたいへんご協力いただきましたことをとくに申し上げておきたいと思ひます。本分館の運営については運営委員会というのがございます。まず館員によって設計図の原案が打ち出され、それを運営委員会でいくどか練り直し、それをさらに教授会にかけて種々のご意見をいただくというようなことで、立地条件から全体のデザイン、レイアウトとそれぞれについて総意をこめていただきました。そして、その結果をこのたび本省に栄転されました施設部の木村課長が、専門家として最終的な検討を加えられました。そういう大勢の方々のご意見を結集する形で、いわば一つの共同製作品としてこの新分館が実現したわけでございます。

ところで、新分館の規模は総面積5,150㎡、図書収蔵力では1階の書庫が2層に分かれ、各層15万冊、計30万冊、また3階の開架閲覧室に6万冊、したがって全体で36万冊が収蔵できる体制をとっております。建築施工は大林組、電気関係は雄電社、備品類は(K.K)天童木工等でございます、この席を借りて改めて厚く御礼申し上げます。

さて、こんにちここに新分館の完成を見たわけでございますが、私共と致しましては今後、立派になりましたこの施設をフルに生かして図書館サービスの一つのモデルになるように粉骨砕身、大いに努力したいと思っております。どうか全学あげて一層の御協力御支援を賜りますようお願いいたします。いささか沿革じみたことを申し上げ、かたわら私共の決意を述べることで御挨拶に代えさせていただきます。どうも有難うございました。

本学教官著作寄贈図書

〈中央図書館〉

林 哲郎（教養部教授）

英語学史論考 こびあん書房 昭53

服部 俊治（経済学部教授）

中国簿記の研究 一増減記帳法の原理と構造 一文館 昭55

〈医学分館〉

井口 潔（医学部教授）

食道静脈瘤選択的シャント手術 一左胃静脈-下大静脈吻合術 医歯薬出版 昭55

〈教養部分館〉

林 哲郎（教養部教授）

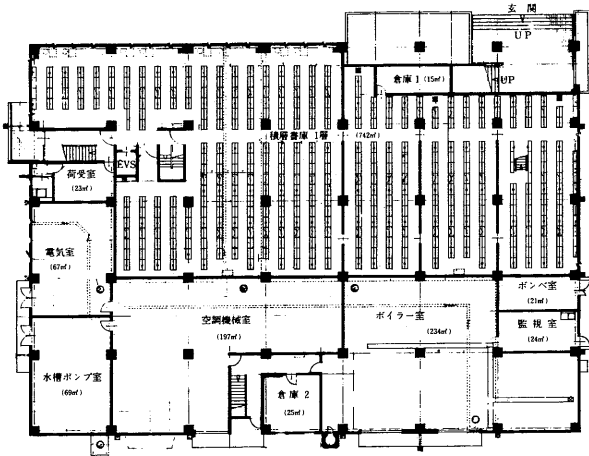
英語学史論考 こびあん書房 昭53

〈薬学部図書室〉

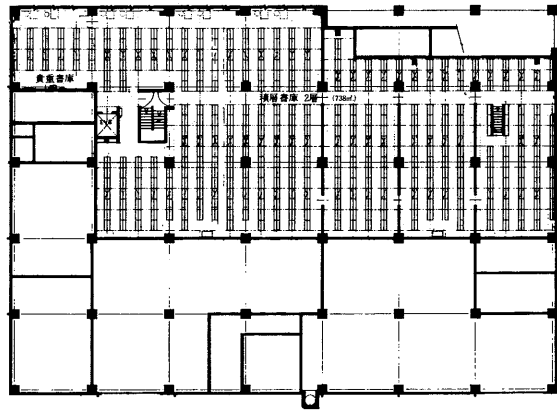
吉村 英敏（薬学部教授）

衛生化学新論 南山堂 昭55

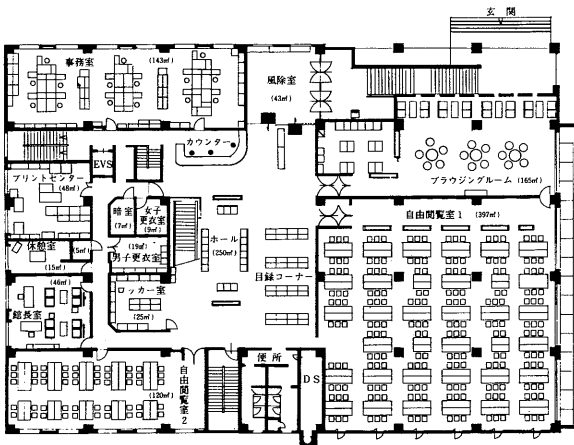
図 面



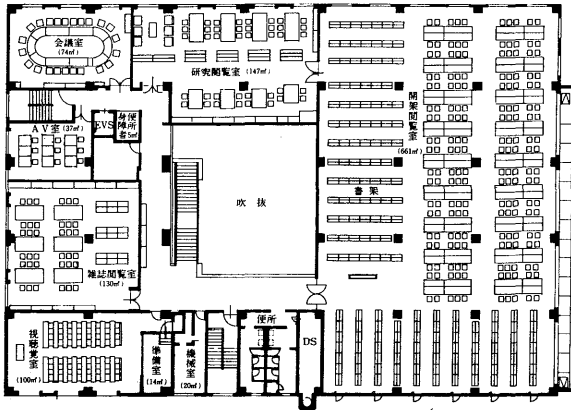
1階 平面略図



中2階 平面略図



2階 平面略図



3階 平面略図

全館開館を9月8日(月)から開始

開館時間及び休館日

開館時間		休館日	備考
平日	土曜日	日曜、国民の祝日、年末年始及び開学記念日等休業日の外、書庫等の整理のため毎月第1日(ただし、第1日が日曜日のときはその翌日)及び春季・夏季休暇中、前・後期試験終了後1～3週間程度	この外、臨時に休館や開館の変更をすることがありますので掲示板に注意してください。
9時～18時	9時～13時		
試験期	9時～15時		

教養部分館は原則として全館開架方式を採用しているの、利用者は図書等を自由に手にとって利用することができます。但し、館内注意事項を厳守して下さい。

1 閲覧

閲覧室及び書庫内の図書等は自由に閲覧することができます。
 利用後の図書等は必ず元の位置へ返却してください。

2 貸出

図書等の貸出については、予め登録が必要です。手続きは、玄関をはいって右のカウンターに学生証を提示して利用者登録カードを受け、それに必要事項を記入の上、掛員に提出してください。毎週水曜日に貸出券を(水曜日に申込の場合は翌水曜日)交付しますので、学生証及び印鑑を持参してください。

※ 貸出券1枚につき1冊貸出できますので同時に3冊まで貸出できます。(図書貸出券は進学まで使用できますので大切にしてください。)

貸出券の区分	貸出冊数	貸出期間
開架図書及び雑誌(水色)	2冊	8日間
書庫内図書(藤色)	1冊	8日間

[注意]

- ※ 貸出期限を過ぎると貸出券にパンチが1個入り、3回の返却遅延で、その貸出券は無効となります。
- ※ 最新号の雑誌及び参考図書の貸出はできません。

3 返却

貸出図書等はカウンターに返却してください。

各室の利用案内

1 階

- ◎書庫（キャレル・書庫内資料を短時間利用するデスク，16席）

〔入庫手続き〕：カウンターに備え付けの入庫者名簿に記入の上，入庫してください。東側半分に2層の積層書庫があり，収蔵力は約300,000冊です。書庫1層には，雑誌のバックナンバー及び新聞を，2層には，図書を配架しています。また，2層の東北のコーナーには貴重書庫があります。図書等の配架を乱さないように利用してください。

2 階（主階）

- ◎自由閲覧室（第1：202席，第2：50席）

入室は自由ですが，静かに利用してください。

- ◎ブラウジングルーム（31席）

軽読書の週刊誌等を約30タイトル備えています。コーナーには朝日，毎日，読売等の主要新聞のほか，地方新聞及び各大学新聞等を配架しています。

- ◎ホール（34席）

喫煙はこのホールを利用してください。

- ◎ロッカールーム（204人分）

ロッカーは開館中に限り自由に使用できます。貴重品は各自携帯し，盗難に注意してください。退館の際には絶対にキーを持ち帰らないでください。



カウンター側よりホール及び
目録コーナーをみる

3 階

各室を利用される場合は筆記具以外は，ロッカーに保管してください。

- ◎開架閲覧室（180席）

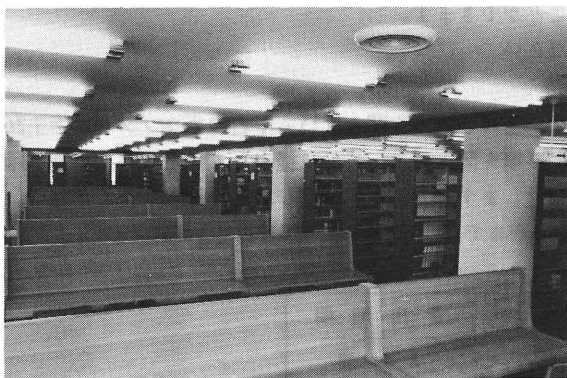
指定図書，一般教養図書及び参考図書等を分類順に現在約35,000冊（将来60,000冊を予定）配架しています。（※参考図書の貸出はできません。）

- ◎研究室閲覧室（46席）

主として研究者用（学生は許可制）として，高度の参考図書，二次資料及び学術雑誌等を配架しています。（※参考図書，二次資料の貸出はできません。）

- ◎雑誌閲覧室（36席）

一般教養雑誌及び専門雑誌125タイトルを最新号から過去一年間分を配架しています。（※最新号は貸出できません。）



開架閲覧室

【館内での注意事項】

- ※ 禁煙：ホールの喫煙コーナーを除き全館禁煙です。
- ※ 他人に迷惑をかけないように静かに利用してください。

- ※ 下駄ばきで入館しないでください。
- ※ 机、椅子はみだりに移動しないこと、また、その上に横臥などしないでください。
- ※ 印刷物の配布及び集会は禁止します。
- ※ 呼び出しは、特別の理由がない限りいたしません。
- ※ 紙屑類は備え付けの屑箱へ入れてください。また、利用される場を汚損しないでください。
- ※ 開館時間変更などの連絡は事前に掲示しますから、掲示板に注意してください。
- ※ 傘立のキーは、持ち帰らないでください。

【その他】

疑問点については、カウンターでお尋ね下さい。

資料紹介

昭和54年度「特別図書購入費」による購入図書について —中央図書館—

— 下記の資料を購入しましたのでご利用ください —

図 書 資 料 名	巻 号	刊 行 年
Catalogs of the Bureau of the Census Library, Washington, D.C. (米国商務省国勢調査局図書館目録)	Vol. 1-20	1976
Biographical and Bibliographical Dictionary of the Italian Humanists and of the World of Classical Scholarship in Italy, 1300-1800. Check List of Non-Italian Humanists, 1300-1800. (ヒューマニズム研究総目録)	Vol. 1-5	1962-1969
Small Group Behavior. (小集団行動)	Vol. 1-9	1970-1978
Religion in America. (米国の宗教)	Ser. 1-2	1969-1972
Zinzendorf, Nikolaus Ludwig von; Hauptschriften. Ergänzungsbände zu den Hauptschriften. (ツインツェンドルフ著作集)	Bd. 1-6 Bd. 1-12	1962-1963 1964-1972
Renaissance Quarterly. (ルネサンス研究)	Vol. 1-30	1948-1977
The Pamphleteer, (Ed. by Abraham John Valpy) (Microfiche) (英国産業革命期文献集)		1813-1828
Les Revolutions du XIX Siecle. (Reprint ed. 1979) (19世紀のフランス革命)	Vol. 1-12	1834-1848
Geoforum; Journal of Physical, Human and Regional Geosciences. (地理学研究)	Vol. 1-9	1970-1978
Publications de l'Institut Francais d'Indologie. (仏国印度学研究所出版物)	No. 2, 5-11, 13-58	1956-1978
旧幕府引継書 (Microfilm)	第4集	昭54
Constitutions of the Countries of the World. (世界各国の憲法)	Vol. 1-15, Suppl.	1971-1979

Der Gerichtssaal; Zeitschrift für Zivil- und Militar-Strafrecht Sowie die Ergänzenden Disziplinen. (Reprint paper 1971) (法廷雑誌)	Bd. 19-29, 31-32	1867-1942
Personnel Journal; the Magazine of Industrial Relations and Personnel Management. (人事管理雑誌)	Vol. 1-55	1922/23-1976
Collection of "Recht auf Arbeit" (19-20世紀 労働法コレクション)		1863-1920
特殊教育学研究	第1巻—第13巻	昭 39—51
国家総動員史 資料編	第1巻—第8巻	昭 54
支子文庫—近世国文学資料 (故田村専一郎九大名誉教授旧蔵書)		

昭和54年度「地域共同利用図書」の備付けについて —中央図書館—

— 下記の資料を備付けましたのでご利用ください —

図 書 名	内 容
European Official Statistical Series, 1841-1970. 1 set (Microfiche) (欧州各国公式経済統計資料)	19世紀中葉以降の欧州22か国で発行された、国民所得、国富、財政、労働、生産、貿易、等々あらゆる経済事実を対象とする最も信頼度の高い公式経済統計を選定して、網羅的に収録した欧州経済史の研究に欠かせない包括的な欧州経済統計資料集である。
National Reporter System: California Reporter. Vol. 1-155. 1 set Southeastern Reporter. 2nd Ser. Vol. 1-256. 1 set Southwestern Reporter. 2nd Ser. Vol. 1-584. 1 set (全米総合判例集)	米国の連邦および州のすべての裁判所の判決を完全に網羅した一連の地域別判例集で、州法研究のための法源資料である。
American Digest System. 8th Decennial Digest. Vol. 1-50. 1 set (全米判例総合索引)	1638年から現在までの連邦および州裁判所で下されたすべての判例に含まれている法律上の論点についての総合索引である。
Corpus Juris Secundum, 147books, with latest pocket parts. 1 set (法律百科事典)	1658年から現在までの米国家法のすべてをまとめ、それぞれの主題毎に説明し解説した最も完全な権威ある法律百科事典である。
石崎文庫蔵本	「近世日本に於ける支那俗語文学史の研究」と題する名著（この分野の研究書として纏まった著述は戦前戦後を通して、これ一冊のみである）を著した故石崎又造氏が研究の基礎として生涯を通して蒐集した唐話関係、板本及び唐本を中心とした一大コレクションである。

利用の窓

夏季休業期の開館計画について

昭和55年度の夏季休業期間中の開館スケジュールについて下記のとおりお知らせします。

記

A 中央図書館

- | | | |
|---------|--------------------------------|--|
| 1. 延長開館 | 平日 9:00～20:00
土曜 9:00～16:30 | 実施日
7月11日(金)～7月31日(木)
9月1日(月)～9月10日(水) |
| 2. 通常開館 | 平日 9:00～17:00
土曜 9:00～12:00 | 実施日
8月1日(金)～8月30日(土) |

[備考]

- (1) 上記のスケジュールにより延長(時間外)開館期間を前年度より27日多くしました。
- (2) 曝書等のため臨時に休館する場合は事前に掲示等で予告します。

B 医学分館

- | | |
|---------|--------------------------------|
| 1. 延長開館 | 平日 9:00～19:00
土曜 9:00～15:00 |
|---------|--------------------------------|

実施日 7月11日(金)～12日(土)

- | | | |
|---------|--------------------------------|--|
| 2. 通常開館 | 平日 9:00～17:00
土曜 9:00～15:00 | 実施日
7月14日(月)～8月9日(土)
8月18日(月)～9月10日(水) |
|---------|--------------------------------|--|

- | | |
|--------|-------------------|
| 3. 休館日 | 8月11日(月)～8月16日(土) |
|--------|-------------------|

C 教養部分館

- | | | |
|---------|--------------------------------|--|
| 1. 通常開館 | 平日 9:00～17:00
土曜 9:00～12:00 | 実施日
7月11日(金)～7月26日(土)
8月18日(月)～9月6日(土) |
|---------|--------------------------------|--|

- | | |
|--------|-------------------|
| 2. 休館日 | 7月28日(月)～8月16日(土) |
|--------|-------------------|

[備考]

9月8日(月)から全館開館し開館時間も平日、9:00～18:00 土曜9:00～13:00となります。

学内図書館だより

工学部図書掛 — この1年 —

工学部は明治44年、九州帝国大学工科大学として、6学科、19講座をもって開設され、以来、70年の歴史を誇り、現在、18学科、124講座を擁するまでに発展している。

学問の進歩はおのずから学科の拡充に連なり、建物が随所に散在する結果となった。図書室も各学科ごとに設置され、蓄積された学術的資料は完全な分散化のもとに当該学科図書室の利用規則に従い、運用がなされている。

昭和54年4月、図書掛は、経理課から総務課に移り専任の掛長が置かれた。掛事務室は、保存図書館の中にある。工学部図書資料の受入業務(主として会計的处理)、学生閲覧室の運営等を主務としており、工学部の図書センターとしての役割を果たす機能は何も持ち合わせていない。「工学部雑誌目録 自然科学欧文編」(昭和46年刊行)のデータの更新や工学部図書総合目録の整備など問題が山積している。

現在、九州大学附属図書館として業務の電算化が進められているが、工学部図書掛(室)にとっても、これに対応するため解決しなければならない新たな問題の提起がなされたようである。

学内マイク

中央図書館貴重文物について (展覧第4回)

「シャルル・ペラ文庫の片鱗」というテーマで、文学部森 洋教授解説のもとに昭和53年度特別に購入された同文庫の一部(1.ペラ教授自身の研究とその背景 2.彼の生地リヨンに関するもの 3.トゥールと雑誌 4.ペラ教授自身の著書と注目を惹く図書のごく一部計22点)を中央図書館メインロビーにおいて、5月12日から7月10日まで展示公開した。

文学部所蔵貴重図書等の展観（開学記念行事）

各学部が所蔵している貴重な文献資料等の公開が、本学の開学記念行事の一環として、一昨年から学部持ち回りで行われるようになった。

本年はその3回目で、文学部が主催することになり、去る5月10日(土)午前10時から午後4時まで標記展示を中央図書館の自由閲覧室及び中央ロビーで行った。

この展観の主なものとしては、「古今和歌集 大本二十卷二冊 嘉禄本系統 伝広憧筆 室町初期写」を始めに、「来島文書 三卷 建暦元年(1211)～正保二年(1645)」「申紅毛壱艘切本帳 小横帳一冊 近世後期」また、中山文庫から軽妙飄逸な筆法で知られる仙厓の掛軸などがあり、総数62点を展示した。

当日は、土曜日にもかかわらず、約300名の来館者を迎え盛会であった。 (文学部図書掛)

フランス科学映画会開催

5月30日午後中央図書館視聴覚室で、日仏学館長クロード・クジェ夫妻を迎え、文学部野沢秀樹助教授司会のもとに同館提供の海洋学・地質学に関するフランス科学映画会が開催され、多数の研究者・学生が参集した。上映した映画の主なタイトルは次の通りである。

- Polymede I (地中海総合調査)
- Operation Famous (中央大西洋海嶺 米仏合同調査)
- Janus II (地中海海底調査)

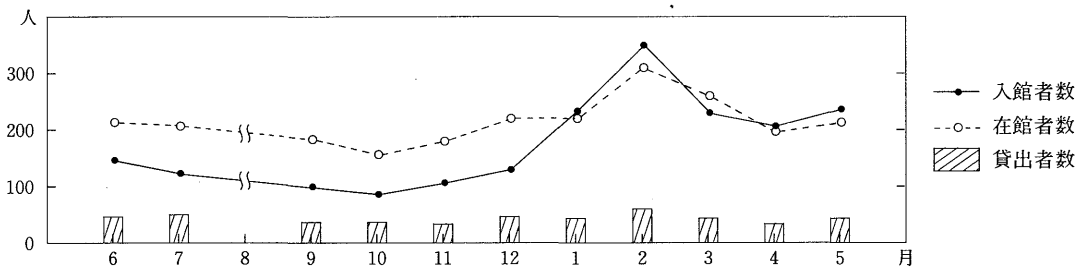
図書館統計

延長開館に於ける中央図書館利用状況

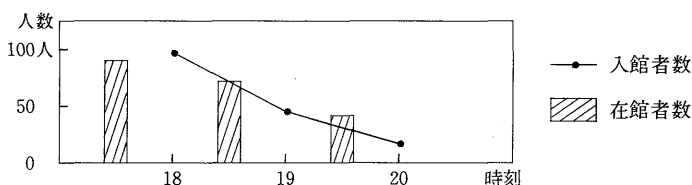
昭和54年6月以来、中央図書館（理・農学部を含む）の延長開館は平日が17時～20時、土曜日が12時30分～16時30分となり、延長開館時の閲覧業務は全てパート職員によって行うこととなった。そこで丸一年間を経た今、延長開館利用状況を見直し、新たな指針とすべく以下の報告をまとめた。

月	S 54年 6月	7	8	9	10	11	12	S 55年 1	2	3	4	5	計
延長開館日数	(18) 25日	(6) 7	0	(16) 15	(24) 25	(23) 23	(13) 12	(14) 15	(22) 23	(15) 15	(16) 19	(23) 23	(190) 202
入館者数	(1,461) 3,109人	(626) 867	0	(1,036) 1,460	(1,487) 2,191	(1,687) 2,511	(1,246) 1,588	(1,211) 3,560	(2,306) 8,140	(1,119) 3,501	(1,046) 3,999	(1,832) 5,526	(15,057) 36,452
在館者数	5,373人	1,435	0	2,769	3,906	4,246	2,691	3,410	7,235	3,907	3,944	5,008	43,924
貸出者数	(560) 1,123人	(209) 332	0	(482) 495	(704) 786	(788) 805	(585) 566	(553) 633	(1,133) 1,344	(570) 598	(641) 638	(962) 1,003	(7,187) 8,323

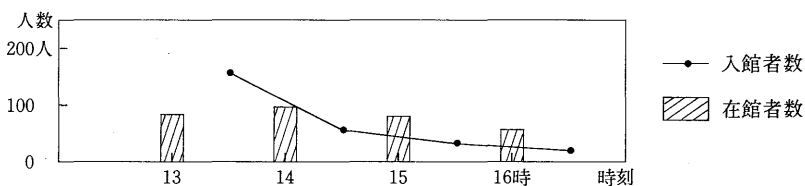
表1 月別利用者数 注()はS53.6～S54.5



グラフ1 月別一日平均利用者数



グラフ2a 平日の時間帯別一日平均入・在館者数



グラフ2b 土曜日の時間帯別一日平均入・在館者数

(注) 上記の入館者数は、平日が17時～18時、18時～19時、19時～20時、土曜が12時30分～13時30分、13時30分～14時30分、14時30分～15時30分、15時30分～16時30分においてチェックしたものであり、在館者数は平日が17時30分、18時30分、19時30分、土曜が13時、14時、15時、16時現在における在館者数をチェックしたものである。

グラフ1から見ると、8月を除いた11ヶ月のうち2月に顕著な利用度のピークが表われた。これは後期の期末試験と卒論作成の時期にあたるためと思われるが、一方では9月10月の前期試験期には最低の利用度という結果が出ている。

グラフ2a、2bは平日と土曜日別の時間帯別入館者数及び在館者数を表わしている。平日は入館者数の減少に伴い在館者数も減少しているが、土曜日は入館者数の減少にもかかわらず在館者数の変化は少ない。このことから土曜日の延長開館においては、平日に比べて学習図書館としての機能をより強く持っているものと思われる。

(閲覧課閲覧掛)

レファレンス・コーナー (その36)

— 中央図書館参考調査掛—

中央図書館の参考調査掛(内線2454, 2464)では、利用者の方々から寄せられるいろいろな質問に対し調査を行っているが、最近の質問の中からいくつかをとりあげて調査の過程と使用資料を紹介しながらここに挙げてみることにした。

質問1 ASTM D 2761-70 という表記の文献について調査して欲しい。

回答例 Step. 1. ASTMは科学技術文献略語辞典より American Society for Testing Materials, Philadelphia, Pa. (Bulletin, Proceedings, Standards)の略とわかる。Step. 2. 表記の仕方から Technical report と思って、そちらをさがしたが該当するものなし。Step. 3. 国立国会図書館の科学技術関係資料あんない誌である科学技術文献サービスに手掛はないかと繰っていたら、No. 38に『アメリカ材料試験協会 (ASTM) とその刊行物』という論文があり、上記の表記は ASTM Standards の規格番号であることがわかる。最初のアルファベットDは、AからGまでの部門のグループを表わしている (Dは各種材料)。次の数字2761は、規格番号。ハイフンの次の2桁の数字は最終改正年号を示す。Step. 4. ※1977 Annual Book of ASTM Standards (九大所蔵 509.13/A11) の Pt. 48 が索引 (Subject Index) になっており、この (Alphanumeric list) 番号から該当規格の収載巻にたどりつける。

※ ASTM standards - : 1930
Book of ASTM standards 1931-1976

Annual book of ASTM standards 1977-

質問2 Itaya, K. Theoretical and experimental physiology of the silk worm. (蚕) Tokyo, Meibund, 1936 (S. 11) P. 249-292. の論文を見たい。単行本の一章かと思われるが、その書名がわからない。

回答例 Step. 1. 日本の参考図書より、石川金太郎：日本蚕糸学文献集、蚕糸学文献目録といった書誌があることがわかるが、九大は所蔵せず。Step. 2. 家蚕遺伝学：田中義麿編 (九大所蔵423/カ/10) の巻末にいくつもの参照文献があり、調査したが該当するものなし。Step. 3. 単行本として出版されたということから、出版年鑑 昭和12年版一収録対象は昭和11年の分)で“生理学”“生物学”“動物学”“蚕業”等の項目を調査すると“蚕業”の項目に下記単行本が出版されたことがわかる。板谷健吾著 理論実験蚕體生理学 東京 明文堂 昭和11年 640 p. 九大総合目録で所蔵を検索すると、農学部動物学教室にあることがわかり、この本の一章ではないかと言うことで確認されるよう紹介した。

質問3 フィリピンでは、自然科学系の教師が不足しているが、日本からの援助機関 JICA とか言う機関があると聞いたが、JICA とはどんな団体か、又その

業務内容、日本での所属機関(官庁)が知りたい。(フィリピン在住の教育機関にいる友人をもつ九大教官からの質問)

回答例 Step. 1. 現代用語の基礎知識の“外国語の略語・統索引”の項で見るとJICAは全く似た用語で、国際協力事業団= JICOとあった。Step. 2. 質問者の記憶違いではないかと、念のため国際協力事業団(JICO)の欧文フルネームを全国各種団体名鑑で確かめるとJapan International Cooperation Agency (JICA)と判明(前記資料のミスプリント JICO→JICAとわかる)。Step. 3. 業務内容と関係機関についての詳細は、上記両資料より案内した。なお、国際協力事業団が、JICAかJICOかの確認は次の資料でも行った。日本政府機構の英語版であるOrganization of the Government of Japan (IV list of Public Corporations-Jigyodan); 訳本は、行政機構図。

質問4 ARL-710039(Mar, 1971)という文献をさがして欲しい。

回答例 Step. 1. Technical reportと思われるので、海外科学技術資料月報をめくってみるが、ARLというものはない。Step. 2. 科学技術文献略語辞典でARLを引いて見るとAccountics Research Laboratory, Hu (PB)など8件のフルネームが出てくる。この内(P. B.)のマークがついていたものが3件あり。上記資料の凡例によると(P. B.)とは、PBレポート、ASTIAレポートなど米国政府研究レポートに含まれるものの略号

とある。Step. 3. そこでPBレポートについての解説文献、科学技術文献サービス, No. 42, 附録P. III, 1の参考事項を調べて見たら、PB, ADレポートは、そのレポートが作成された機関により付されたレポート番号をも別に持っており、このレポート番号からPBあるいはADレポート番号をさがしだすことが可能であることがわかった。又そのための資料にはPB, ADレポート対照索引(正-1965 続1971あり), 国立国会図書館発行, 続の巻末には、機関のフルネームから略称への、略称からフルネームへの索引もついている)があることが判明、それを見るとARL-番号の形のものに掲載されており、しかも番号の始め2桁が年代を示していることがわかった。Step. 4. しかしながら、九大にはこの資料が1967年までの分しかなく、再び科学技術文献サービス No. 46, P. 38で調査すると、1968年以降は通称“GRA”(Government Reports Announcement 1975年以降はGovernment Report Announcements & Indexと改題)に掲載されていることがわかった。(本学では機械工学科がこの資料を1969年より継続購入中)。Step. 5. そこで機械工学科図書室に問合せる前、念のため質問者にADかPB番号がわからないかと再度照会したところAD番号(AD-727792)がついていたことがわかり、その番号で国立国会図書館のADレポート所蔵目録第4巻(1976)をみると、国会図書館が所蔵していることが判明、AD番号(AD No. 727792, Vol. 71, No. 18, Page 185)で複写を申込むよう回答した。

◆ 会 議

九州大学附属図書館商議委員会 (第116回)

〈とき: 昭和55年5月6日 ところ: 附属図書館視聴覚室〉

議 題

1. 昭和55年度振替予算(案)について
2. 昭和56年度概算要求(案)について

報 告

1. 附属図書館事務部事務分掌規程及び附属図書館文書処理等細則の一部改正について

九州地区国立大学図書館協議会 (第10回)

〈とき: 昭和55年5月7日 ところ: 北九州市 ひびき荘〉

九州地区国立14大学から32名が参加して開催され、次の協議題について討議された。

1. 第28回(昭和56年度)国立大学図書館協議会総会の会場館決定について
 2. 九州地区国立大学図書館実務者連絡会議のあり方について
 3. 九州地区国立大学継続受入外国雑誌ファイルの取扱いについて
 4. 機械化を想定した大学図書館業務の標準化の推進について
 5. 学術審議会答申「今後における学術情報システムの在り方について」に対応する大学図書館の改善について — 文部省等に対する要望事項を含む
- なお、来年度地区協議会の当番館は熊本大学に決定した。

九州地区大学図書館協議会総会 (第31回)

〈とき：昭和55年5月8日 ところ：北九州市 ひびき荘〉

加盟館42館中38館から81名とオブザーバーとして1館1名合計82名が参加して開催された。慣例により当番の福岡県立3大学（福岡女子大学、福岡県社会保育短期大学、九州歯科大学）の中から九州歯科大学附属図書館長を議長に選出、永年勤続者表彰、新規加入館紹介と承認、昭和54年度の決算報告及び昭和55年度予算案等の審議があり、それぞれ承認された。

続いて次の議題について協議された。

1. 昭和55年度全国図書館大会（第6分科会学術情報について 於鹿児島県産業会館）参加について
2. 会費の値上げについて
3. 九州地区大学図書館協議会表彰規程の一部改正について

午後からは①西南学院大学の刀根司書長より「受入れ図書の月別調査について」の調査研究②日本電信電話公社の佐藤鉄太郎氏他1名より「漢字端末による情報検索」と題する講演と実演が行われた。

本館からは岡村館長、沙藤事務部長、松川整理課長、平川整理課長補佐が出席した。

九州地区医学図書館協議会総会 (第28回)

〈とき：昭和55年5月16日 ところ：長崎大学医学部記念同窓会館〉

本年度は長崎大学医学部の当番の下に加盟12館の館長をまじえた26名が参加し、次の議題及び承合事項について協議が行われた。

協 議 題

1. 医・歯・薬学系雑誌略名表の作成について（九州大学）
2. 九州地区医学図書館職員研修会の開催について（熊本大学）

承 合 事 項

1. TSS (JOIS 等) 用端末機の設置と運用について（鹿児島大学）

その外、今年度は日本医学図書館協会の役員館の改選時期でもあったため、この総会で協議のうえ新役員館として久留米大学が選出された。久留米大学はむこう2年間理事館と評議館を受けもつことになった。

なお、来年度総会当番館は福岡歯科大学に決定した。九州大学から山元分館長、朝倉参考調査掛長、河上目録掛長が出席した。

昭和55年度 西日本図書館学会研究発表会

〈とき：昭和55年5月17日 ところ：九州産業大学図書館〉

年次総会に続いて開かれた西日本図書館学会研究発表会では、次の研究発表が行われ、それぞれ活発な質疑応答がかわされた。

また、“対馬藩漢籍について”九州大学文学部教授 岡村繁氏が講演された。

- (1) 北里文庫小史：植村芳浩（熊本県立図書館）
- (2) 大学図書館の指定図書制度について：重松多喜造（山口大学附属図書館）
- (3) 現代教育と学校図書館：山本徳夫（福岡県学校図書館協議会）

福岡県国立4大学附属図書館事務連絡会議（第7～9回）

第7回から閲覧業務担当者の事務連絡会議の予定であったが第7回は西日本新聞社野村製作開発本部長の「ソフトウェアとシステム設計及びオンラインシステムについて」の講演をもって会議に切替えた。第8、9回は電算化に伴う閲覧業務の諸問題について話し合った。

第7回	55. 2. 27	講 演
第8回	55. 3. 21	電算化に伴う閲覧業務の諸問題（第1回）
第9回	55. 5. 22	電算化に伴う閲覧業務の諸問題（第2回）

福岡県・佐賀県大学図書館協議会総会（昭和55年度）

〈とき：昭和55年5月23日（金） ところ：九州共立大学図書館〉

この総会は、加盟館36館中34館68名が参加して開催され、当番館である九州共立大学の木下図書館長を議長に選出し、議事が進められた。

- 1 折尾女子経済短期大学、産業医科大学の両図書館を新加盟館として承認した。
- 2 昭和54年度決算報告及び監査報告を承認した。
- 3 昭和55年度予算案を下記を含めて承認した。
 - (1) 会員会費現行2,000円を3,000円に改正する。
 - (2) 準会員の会費は、今後徴収しない。
- 4 会費の改正に伴う会則の改正を承認した。
- 5 昨年度総会の経過及びアンケート調査の結果報告があった。
- 6 今後、総会における協議題については、理事館と3地区当番館との話し合いのうえで決定することになった。
- 7 昭和54年度研究会実施状況について、各地区毎に報告された。
- 8 昭和55年度理事館は、福岡地区の国立大学の中から当番館を選出することになった。

昭和55年度 国立大学附属図書館事務（部・課）長会議

〈とき：昭和55年5月30日 ところ：国立科学博物館講堂〉

この会議は前年度に続いて文部省学術国際局主催で開かれたもので第2回目に当たる。全国92の国立大学附属図書館から事務（部・課）長128名が出席した。

学術国際局大崎審議官の開会のあいさつに続いて、遠山情報図書館課長が「大学図書館の当面する課題について」講演された。

「学術情報システムの大学研究活動における意義について」（手塚 晃・埼玉大学政策科学研究科教授）、「昭和55年度国立大学図書館関係予算について」（佐藤保男・学術国際局情報図書館課課長補佐）、「大学図書館活動について」（田中久文・学術国際局情報図書館課専門員）、「人事行政上の諸問題について」（小埜寺直己・大臣官房人事課副長）、「大学における会計事務の諸問題について」（前田登司男・大臣官房会計課総務班主査）、「図書館建築について」（管理局教育施設部技術参事官）それぞれ報告があった。

本学からは松川整理課長、長谷川閲覧課長の2名が出席した。

国立大学図書館協議会総会（第27回）

〈とき：昭和55年6月19～20日 ところ：東北大学記念講堂〉

東北地区協議会の当番の下に、文部省から田保橋情報図書館課長、田中専門員、糸金大学図書館係長の出席を得て92大学から224名が参加し開催された。なおオブザーバーとして国文学研究資料館が参加した。

第1日目は、一般経過報告、各地区協議会報告、「図書館相互協力」調査研究班の報告等のあと、本年度国立大学図書館協議会賞には「医学図書館のための参考図書資料」が図書館活動における功績として選ばれ、著者の中川克哉氏（鳥取大学附属図書館医学部分館）が受賞した。研究集会では「全国的規模で展開する学術情報システムに、各大学内の図書館体制を如何に整合し、協力させ得るか」というテーマにより、①学術雑誌の学内集中管理（岡山大学：本郷太郎事務部長）②外国雑誌拠点図書館の運営（大阪大学：東米吉事務部長）③コンピューターの地域共同利用（九州大学：沙藤隆茂事務部長）④図書館新営計画と学術情報システム（長岡技術科学大学：及川三千男図書課長）⑤まとめとして東北大学：長尾事務部長よりそれぞれ報告があり活発な討議が行われた。

第2日目は午前中、第1分科会（運営・サービス）第2分科会（予算）第3分科会（人事）それぞれの協議題について審議。第3分科会の主査には本学の岡村館長が選出された。午後の全体会議で各主査からとりまとめの報告があり、文部省その他の関係官庁に対する要望事項が決定された。主なるものは①運営・サービス関係では「学術情報センター」の設置促進、図書館建築必要面積算定基準の改訂促進②予算関係では図書館維持費、夜間開館実施に伴う維持費の増額、大学の機会均等の見地から通信回線料経費、図書購入費（一般図書、学生用図書、特別図書）の増額、新設大学の基幹図書の整備、図書館職員の研修旅費の増額③人事関係では図書館職員の定員増、相互協力担当職員の増、夜間学部を置く大学のための定員増、4等級定数枠の拡大、事務部長、課長、事務長の管理職手当の増額等である。

なお、図書館相互協力調査研究班から報告のあった「国立大学内における図書館相互利用制度の整備」に関しては、相互利用制度化実現のための検討委員会を作るという方向で理事会に付託されることになった。

本学からは岡村館長、沙藤事務部長、松川整理課長が出席した。

お知らせ

文献複写業務の依頼館増設について

昭和55年度から、新たに「国立大学等図書館間文献複写業務」の依頼館として次の通り登録された。

図書館(室)名	略称	コード番号
九州大学附属図書館教養部分館	九大教養分	36802
九州大学温泉治療学研究所図書室	九大温研	36803

中央図書館の目録掛の改組

中央図書館では昭和55年4月1日から、目録掛をそれまでの1掛から和漢書目録掛と洋書目録掛の2掛に分割し、目録業務の改善に努力することになった。

商議委員会委員名簿（昭和55年5月1日現在）

委員長	館長	岡村	繁	委員	(経)教授	大屋	祐雪
委員	(文)教	西田	越郎	〃	(〃) 〃	川端	久夫
〃	(〃) 〃	松永	雄策	〃	(理) 〃	松田	博嗣
〃	(育) 〃	成瀬	悟一	〃	(〃) 〃	君塚	英夫
〃	(〃) 〃	高野	桂一	〃	(医) 〃	山元	寅男
〃	(法) 〃	谷川	栄彦	〃	(〃) 〃	遠藤	英也
〃	(〃) 〃	手島	孝	〃	(〃) 〃		

委 員	(歯) 教 授	高 濱 靖 英
〃	(〃) 〃	勝 田 信 夫
〃	(薬) 〃	川 崎 敏 男
〃	(〃) 〃	小 嶋 正 治
〃	(工) 〃	高 柳 正 素
〃	(〃) 〃	宮 副 夫 泰 宏
〃	(農) 〃	平 嶋 儀

委 員	(農) 教 授	土 屋 圭 造
〃	(養) 〃	中 村 正 夫
〃	(〃) 〃	上 野 清 太 郎
〃	(総理工) 〃	赤 崎 正 則
〃	(〃) 〃	柳 ヶ 瀬 勉
〃	(温) 〃	矢 永 尚 士 修
〃	(生) 〃	宮 武

計 報

木下 美恵子 氏 (薬学部図書室)

去る5月12日(月)午前2時10分、病気のため逝去されました。(享年48才) ここに故人の御冥福を祈り謹んで弔意を表します。

◆ 人 事 異 動

- 4.1 重松多喜造 (附属図書館整理課課長補佐) 山口大学附属図書館閲覧課長へ
- 〃 平川 友視 (整理課受入掛長) 整理課課長補佐へ
- 〃 福永 寿夫 (閲覧課参考調査掛長) 整理課受入掛長へ
- 〃 花田 洋子 (閲覧課相互利用掛長) 閲覧課参考調査掛長へ
- 〃 舟越 俊允 (都城工業高等専門学校庶務課図書係長) 閲覧課相互利用掛長へ
- 〃 中野 周行 (整理課目録掛長) 整理課洋書目録掛長へ
- 〃 岸本 澄夫 (理学部図書掛長) 整理課和漢書目録掛長へ
- 〃 田島 秀晃 (宮崎医科大学教務部図書課図書係長) 理学部図書掛長へ
- 〃 青柳 良輔 (農学部図書掛) 都城工業高等専門学校庶務課図書係長へ
- 〃 札ノ内 実 (閲覧課相互利用掛) 佐賀医科大学図書課図書係長へ
- 〃 末次 駿 (応用力学研究所図書主任) 大分医科大学図書課図書係長へ
- 〃 山田 玄連 (薬学部図書主任) 応用力学研究所

図書主任へ

- 4.1 保田 秀人 (理学部図書掛) 薬学部図書主任へ
- 〃 二宮 純恭 (整理課雑誌掛) 整理課和漢書目録掛へ
- 〃 園田 国昭 (閲覧課参考調査掛) 整理課雑誌掛へ
- 〃 末次美知夫 (筑波大学図書館部学術情報課) 閲覧課参考調査掛へ
- 〃 三浦 誠 (閲覧課閲覧掛) 理学部図書掛へ
- 〃 永井 謙 (整理課目録掛) 法学部図書掛へ
- 〃 林田 和政 (法学部図書掛) 農学部図書掛へ
- 〃 新原 民子 (整理課目録掛) 整理課和漢書目録掛へ
- 〃 本山 睦 (〃) 〃 〃
- 〃 保田 直美 (〃) 〃 〃
- 〃 松本 隆子 (〃) 〃 〃
- 〃 山田 律子 (〃) 〃 洋書目録掛へ
- 〃 井上 尚代 (〃) 〃 〃
- 〃 樋口 伸子 (〃) 〃 〃
- 〃 内海 恭子 (〃) 〃 〃
- 〃 大貝佐和子 (〃) 〃 〃
- 〃 益森 治己 閲覧課閲覧掛に採用
- 5.1 宮崎 清美 閲覧課相互利用掛に採用

◆ 日 録

会 議 等

- 5.2 図書系掛長会議
- 6 図書館商議委員会 (第116回)
- 7 九州地区国立大学図書館協議会 (第10回) 於ひびき荘
- 8 九州地区大学図書館協議会総会 (第31回) 於ひびき荘
- 22 福岡県国立4大学附属図書館事務連絡会議
- 23 福岡県佐賀県大学図書館協議会総会 於九州共立大学
- 30 国立大学附属図書館事務(部・課)長会議 於国立科学博物館
- 6.18 国立大学図書館協議会 (第27回) 準備理事会 於東北大学

- 6.19 国立大学図書館協議会 (第27回) 総会 於東北大学
- 20 国立大学図書館協議会 (第27回) 分科会 於東北大学
- 24 図書系掛長研修会
- 25 北部九州地区国立大学図書館機械化ネットワーク協議会・開発連絡小委員会
- 25 米国における図書館ネットワークの現状を語る会

来 館 者

- 5.6 鹿児島大学附属図書館裳輪事務部長
- 17 山口大学附属図書館松本雑誌係長
- 6.11 東京工業大学附属図書館黒住事務部長

編集委員 主査・長谷川 信彦 委員・花田 洋子, 原 一義, 岸本 澄夫, 舟越 俊允(中央図書館), 出島 照義(医学分館), 伊藤 繁行(教養部分館), 友納 昭二(経済), 三嶋 博義(工)

九州大学図書館報「図書館情報」Vol. 16, No. 2 (通巻118)

1980年6月30日発行・発行人 沙 藤 隆 茂

発行所 九州大学附属図書館・福岡市東区箱崎6丁目10番1号・〒81121・電話代表 (641) 1101 内線 2454